教育学習支援センター（LUCKS）紀要のサンプル

―副題がある場合―

岡本一郎 *a*, 平生二郎 *b*

*a* 甲南大学 教育学部 教育支援学科

神戸市東灘区岡本8-9-1, 658-8501

*b* 甲南大学 学習学部 学習支援学科

神戸市東灘区向洋町中8-9-11, 658-8511

概 要

本サンプルは，教育学習支援センターの紀要への投稿にあたり，注意事項や要点を記載したものであり，あくまでも参考としてお使いください。なお，概要には，研究の主旨や内容をまとめたものを簡潔に記載し，研究成果やその検証内容を記載してください。また，詳細は，各節の説明を熟読の上，スタイルやフォントサイズ，体裁に大きな差が生まれないように注意してください。句読点の統一や文章の表現などもできるだけ統一してください。

キーワード: 　教育支援，学習支援，BYOD，学生アシスタント

# はじめに

教育学習支援センター(Learning Utility Center for Konan University Student; 略称LUCKS) の紀要は，甲南大学（以下「本学」という。）創立者である平生釟三郎が唱える「人格の修養と健康を重んじ，個性を尊重して各人の天賦の特性を啓発する人物教育」に基づく教育および学習に関する成果を広く普及させ，これらに関する活動をより発展させることを目的としたものである。

# 投稿できる原稿

1. 投稿原稿は本紀要の目的に沿った下記のいずれかとし，未公刊のものとする。
   * 論文
   * 研究報告，実践報告，事例報告
   * その他（教育学習支援センター紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）が認めたもの）
2. 投稿原稿は日本語または英語のみとし，完成形で提出することとする。
3. 論文には300字以内（英文の場合は200words以内）の要旨（アブストラクト）と５つ程度のキーワードを記載すること。
4. 原稿作成にあたっては，特にスタイルやフォントを規定しないが，別途用意されたMicrosoft Wordのフォーマットに準拠すること。

# 投稿資格

1. 論文の投稿は、本学専任教員（名誉教授を含む）及び本学専任教員が推薦する本学の大学院生に限る。
2. 研究報告，実践報告，事例報告及びその他の投稿は，原則として本学教職員（名誉教授を含む）に限る。
3. 共著者として、本学専任教員以外の共同研究者、本学教職員、及び編集委員会が認めた者を含むことはさしつかえない。

# 原稿の投稿と受理

　教育学習支援センターから案内がありますように，締め切り期限を厳守の上，事務室もしくは担当者までメールでお送りください。投稿を受理しましたら，できるだけ遅滞なくお知らせします。

1. 原稿はパソコン等で作成したWord・PDFの２つの ファイルとし，電子メールによる送付もしくはUSB メモリ等に保存したファイルを教育学習支援センター（以下，「当センター」と略す）に直接持参することにより提出するものとする。
2. 編集の実務は，当センター副所長および職員が主として担当し，編集委員会が投稿を確認した時点で受理とする。
3. 仕上がりが20 頁以上の論文については，著者による，長さと内容のバランスが適当である旨の添書を必要とする。

　原稿におけるスタイルや図・表，数式等について，注意事項をまとめておきます。

## 用紙サイズと提出形式

原稿サイズは，A4 サイズでお願いします。提出原稿は，PDF に変換して投稿していただきますので，フォントはすべて埋め込み，機種依存文字は使用しないでください。

## スタイル

本Wordファイルにそれぞれの部分の書式がスタイルとして登録されています。スタイルを使用しない場合は，本ファイルを参考に同じようなフォント（英文フォントにもご注意ください）やそのサイズを設定してください。

表 1：表のキャプションは上側

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| パラメータ | データ | 評価 |
| α | 123.56 | A |
| β | -12.34 | D |

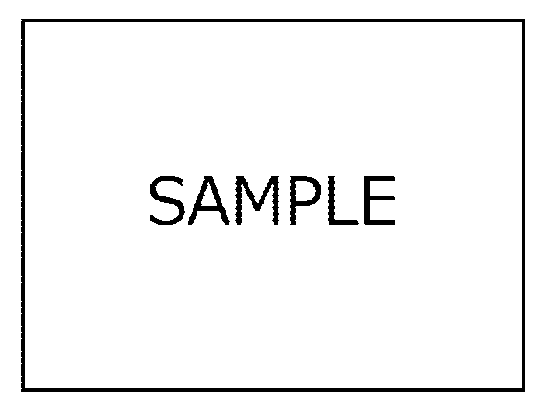


図 1：図のキャプションは下側

## 図表や参考文献の表記

* + 1. 図・表

図や表は，結果を示す大切なものです。結果をわかりやすく示すとともに，適切な位置に配置してください。図や表はできるだけ上部や下部にまとめることをおすすめします。カラーの場合、期間リポジトリではカラーのままですが冊子体は白黒のみですのでご注意ください。

* + 1. 数式

数式を記載する場合は，数式フォントを用いて，かつ数式番号を付記してください。

 (1)

* + 1. 参考文献

参考文献として適切なものがあれば原稿内容における出現順に列挙して引用してください[1]-[3]。

* + - 1. 小項目よりも小さい項目について

スタイルとしてさらに小さな区分の項目が必要な場合はこちらをお使いください。

# 査読・校閲

基本的に査読・校閲は行わないが，編集委員会が必要と判断した場合は，学外者や専門領域に近い本学教員に意見を伺い，著者らに原稿の校正依頼を行う場合がある。また，本紀要の目的や主旨に沿わない原稿の場合，掲載を拒否する場合もある。

# 著作権

投稿論文の著作権は、著者に帰属する。

# 校閲補助

英文原稿の校閲が必要な場合は，著者負担とする。

# 著者校正・電子化・公開

著者による校正は行わない。

紀要は，冊子体で公刊し，１部を主著者に無料で提供するが，それ以上は有料とする。

紀要は，原則として当センターのウェブサイトで公開するものとし，国立情報学研究所を経て電子化し公開する。

# 編集委員会

編集委員会は，当センター所長を委員長とし，当センター副所長および所属専任教員，当センター専任職員1 名，その他に当センター所長が必要と認めた数名までの本学専任教員で構成されるものとする。

# 投稿先と問い合わせ先

投稿先は，別途お知らせしています教育学習支援センターからのメールでご確認ください。なお，その他のお問い合わせや質問は下記までお願いします。

【教育学習支援センター】

Tel. 078-386-4312(内線:2180)

メール: [lucks@adm.konan-u.ac.jp](mailto:lucks@adm.konan-u.ac.jp)

また，共著者も別冊が必要な場合は，教育学習支援センターに問い合わせてください。

# おわりに

教育学習支援センター紀要へのご投稿ありがとうございました。日頃の研究成果が，本学における教育・学習支援への一助となれば幸いです。今後とも，甲南大学の教育ならびに学習支援に関するサポートを行っていきますので，どうかよろしくお願いいたします。

謝辞

　謝辞を書く場合は，適切に記載してください。

参考文献

[1] 岡本一郎, 平生二郎, “BYOD を用いた教育システムの評価,” 教育科学学会論文誌A-I, vol. 99-A-I, no. 11, pp. 111–138, 2015.

[2] 甲南花子, 教育学習支援センターの役割. 甲南大学出版社, 2014.

[3] T. Kobe, “Bring Your Own Device to the Learning Systems,” in Proc. of International Symposium on Learning Systems, pp. 57–73, 2015.